

心に残る文化財子供塾 益田市立道川小学校

平成 27 年 6 月 5 日（金） 9：30～12：20

1. 活動の概要

6月5日（金）、益田市立道川小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに埋蔵文化財調査センター職員から縄文時代と弥生時代の違い、縄文時代の生活のようすなどの説明を聞きました。じっさいに遺跡から出土した動物や魚の骨、道具をみながら、縄文時代にどんなものを食べていたのか、狩りや魚とりがどのようにして行われていたのかなど、学びました。

その後、益田市教育委員会の職員から匹見町の遺跡や出土品について説明があり、匹見町にたくさんの縄文遺跡があることに驚いていました。

体験学習は、縄文ハンバーグを作り、古代米（赤米）を炊きました。みんなハンバーグに混ぜるクルミを割るのに苦労していました。できあがった料理は、意外とおいしく好評でした。

2. 活動のようす



「縄文人はこんなに大きな魚を食べていたんだね」



「これで肉や魚を切ったんだね」



「これ、おいしいのかなあ？」



「古代米が炊けました」

3. こども塾を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・クルミを割るのはたいへんだったけど、縄文ハンバーグはおいしかった。
- ・匹見町にたくさんの縄文遺跡があることがわかり、びっくりしました。

2) 担任の先生から

- ・地元の土器・石器に触れることができ、よかったです。
- ・専門的な話を、子供たちにもわかりやすく説明してもらいました。